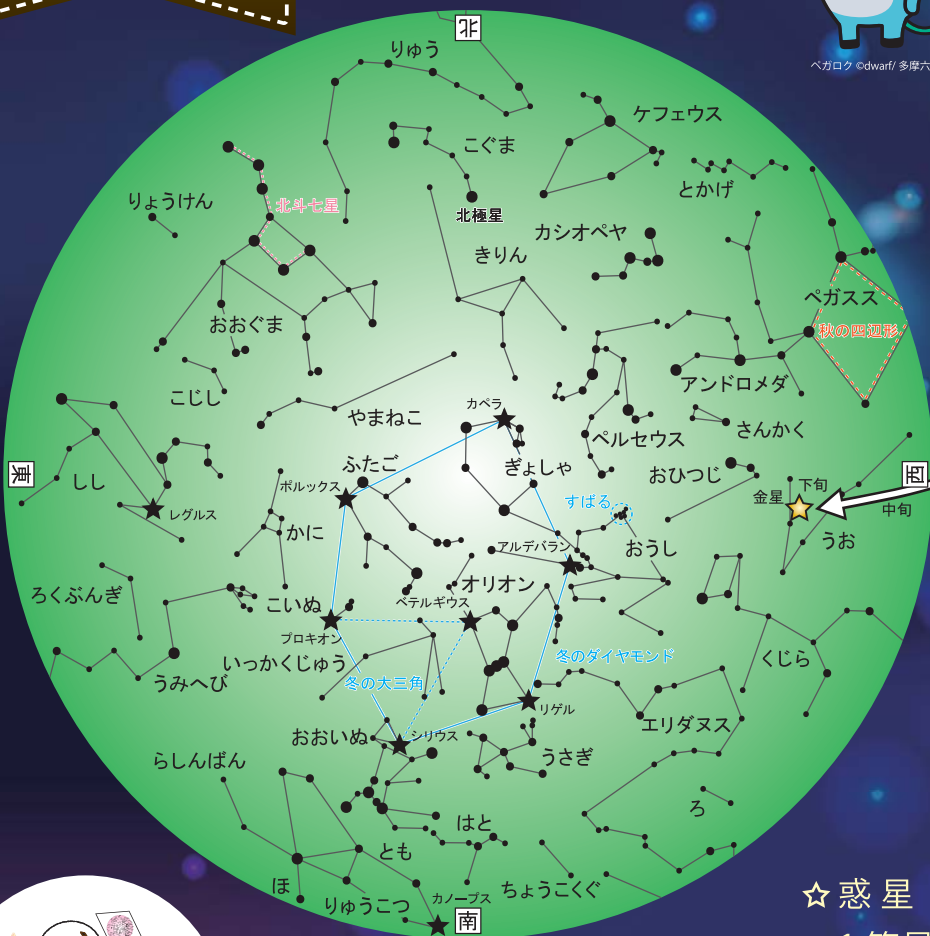


2月の星空

上旬：21 時頃
中旬：20 時頃
下旬：19 時頃



ベガロク ©dwarf/ 多摩六都科学館



星座案内のつかいかた

星座盤は空にかざして方位を合わせて見てください。
(空と重ねると東西の向きが正しくなります)

2020年 2月のおもな天文現象

- 2/2 上弦
- 2/4 立春
- 2/9 満月
- 2/10 水星が東方最大離角※
- 2/16 下弦
- 2/19 月と火星が並ぶ(明け方、東の空)
- 2/20 月と木星が並ぶ(明け方、東の空)
- 2/21 月と土星が並ぶ(明け方、東の低空)
- 2/24 新月
- 2/27・28 月と金星が並ぶ

※水星が空で太陽から最も離れて見える日。
前後数日間は夕方西の低空で見つけやすくなる。

ふたご座

となり同士で並ぶ、銀色の2等星「カストル」と金色の1等星「ポルクス」が目印。仲の良い兄弟の星座です。冒険中の2人をおそった大嵐が琴の名人オルフェウスの奏でた音で静まったとき、2人の頭上に星が現れたという伝説から、双子は船乗りたちの守り神ともされています。

ワンポイント
星座★



今月のポイント

全編生解説プラネタリウムのみどころ たっぷりほしぞらめぐり～冬から春へ～



2月11日からの『たっぷりほしぞらめぐり』は、星をゆったり・じっくり・たっぷり、そして思う存分見てみたいという声から生まれた、星づくりの45分間をお楽しみいただく番組です。
多くの1等星が華やかに飾る冬の空から、北斗七星や春の大三角をはじめとした雄大な星並びを楽しめる春の空まで、解説員による全編星空生解説でお送りします。
夕方から夜明けへむけて刻々と表情を変えていく星空と一緒にめぐりましょう。

「冬の大三角」座はないの？

オリオン座やおおいぬ座などの形は、星座ごとに定められた区画内の恒星を自由につないで描かれています。1等星を結ぶ冬の大三角や冬のダイヤモンドの星並びはその区画を越えて結んでいるもので、「星座」ではありません。これらのような星座の枠にとられない星並びについては「アステリズム」と呼ぶことがあります。その多くは街中でも比較的に簡単に見つけることができるので、星座の目印となったり、単体では見つけづらいような暗い星を探すときの手がかりにされたりします。時には星座の枠など気にせずに、自由に星を結ぶのも楽しいものです。